

オンラインデータベースを利用した 学校ホームページ群の客観的評価 その3

- J-KIDS 大賞2004の概要と評価結果 -

豊福晋平¹

(概要) 学校ホームページの情報提供を行っている「i-learn.jp」サイト²では、昨年に引き続き2004年も全日本小学校ホームページ大賞(通称: J-KIDS 大賞2004)の企画および選考過程に協力して、全国15039件の小学校ホームページ調査を行った。この調査は1000名を超える社会人ボランティアがオンラインデータベースと客観指標を用いて評価作業を行い、県代表校枠50および県優秀校約450を確定するものである。本稿では、昨年度との比較から、特に指標構造化をはじめとした選考過程の改善点、および調査結果の推移について明らかにする。

(キーワード) インターネット、学校ホームページ、機能評価、コンテンツ評価、データベース

はじめに

国際大学 GLOCOM のホームページサイト「i-learn.jp」の「日本の学校」では、全国(一部海外を含む)の K-12 の学校ホームページ情報約29000件を保有し、ホームページの更新状況の把握や、学校側からのアピールもあわせて情報提供しているが、2003年4月より開催されている「全日本小学校ホームページ大賞」³では、初期選考プロセスの情報集約を行うセンターとして重要な役割を果たしている。

2004年は5月から7月までの約2ヶ月間、全国の小学校、特殊教育諸学校(高等部を除く)、海外日本人学校の計15039校を対象に、社会人ボランティア1077名の協力を得て悉皆調査・評価を行った。

選考過程の改善

昨年度の課題として行ったのが評価品質向上のための選考過程の改善である。選考評価者は、企画に賛同する社会人ボランティア応募者がベースであるが、参加人員が多数になることから、評価品質を一定確保する必要がある。

2004年は1校あたり2名の選考評価者によるダブルチェックを行う(評価校の選択は選考評価者の任意である)かわりに、必須条件を最初に設け、条件を全て満足しない場合は評価を打ち切る方法をとった。

必須条件は昨年の統計結果と i-learn.jp の蓄積情報をもとに次のように設定した。最終更新日が6ヶ月以内(2003年10月以降)であること、公立学校は自治体名を含む学校正式

名称をトップページに掲出していること、所在地住所および電話の記載がサイト内にあること、の3点である。

この結果、5880件(全体の約39%)が評価打ち切りの対象となった。図1にその内訳を示す。

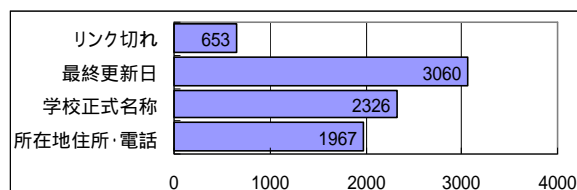


図1 評価打ち切り条件該当数(のべ)

評価指標の構造化

昨年度の客観評価指標は 基本・教育・運用・広報・機能・総合の6カテゴリであったが、点数が統一されていないことから全体の把握が難しく、また、基準に一部あいまいさがあることから、選考評価者によって評価差を生じる問題があった。

そこで、2004年は学校ホームページのコンセプトをあらためて再定義し、これをもって客観評価指標のマトリクス構造化をおこなった。

マトリクスの横軸には、組織(O)・教育活動(T)・学校生活(S)の順に、受け持つ情報の範囲を基準にカテゴリを配置し、マトリクスの縦軸には、広報説明(P)・拠点・参加協働(C)、蓄積(A)の順に、学校ホームページの担う役割を基準にカテゴリを配置した。これにより、3×3合計9セルを構成した。

また、コンテンツ以外の機能面を評価するため、

マトリクス外に機能(F)を置いた。全体の構造図を表1に示す。

表1 J-KIDS 大賞 2004 選考基準マトリクス

J-KIDS大賞2004 選考基準マトリクス(概要)	組織 Organization 学校組織に関わる情報 管理職・教職員・上位組織	教育活動 Teaching & Learning 教育活動に関わる情報 授業者と学習者	学校生活 School Life 学校生活に関わる情報 保護者・地域等の参加者
広報説明 Public Relations 「つたえる」 計画・ルール・情報開示	OP	TP	SP
参加協働・拠点 Collaboration 「かかわる・ひろげる」 組織・活動・拠点・告知	OC	TC	SC
蓄積 Archive 「まとめる・のこす」 記録・成果・蓄積・継承	OA	TA	SA
機能 Functions 「はたさき・しかけ」 機能・技術	F		

さらに、各セルは各合計10ポイント(Fのみ7ポイント)で構成される評定項目を設定し、1ポイントごとに細かく加点条件を定義した。

調査結果

有効評定数9159件について、2004年7月20日時点の仮集計値による結果を以下に示す。各セルの平均値は図2の通りである。

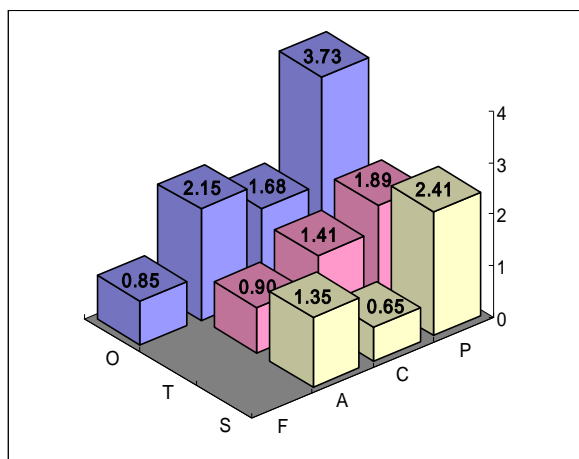


図2 各セルの平均値

OPセル(組織・広報)では特に基礎的な項目が多いことから点数が著しく高い。これに対して、SCセル(学校生活・拠点参加協働)やTA(教育活動・蓄積)は低い。

縦横の軸でみると、横軸(OTS)では組織(O)の評点が高いのに対して、教育活動(T)は低めである。縦軸(PCA)では広報説明(P)が高く、拠点・参加協働(C)は低い。

各セルの合計点(配点レンジ0~97)の平均は17.67、標準偏差は9.158、評点合計のレンジは2~79となった。有効件数の分布図を図3に示す。この分布の形態はほぼ昨年と同様である。

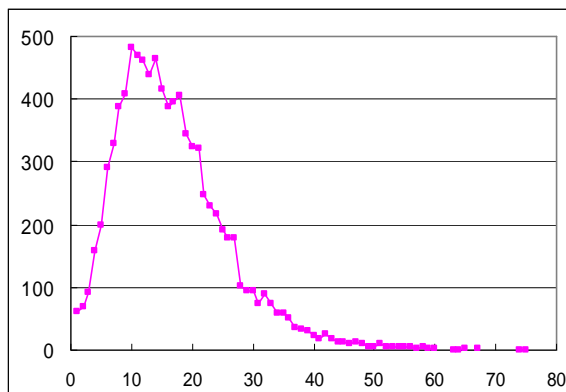


図3 評点合計の分布

各項目別の条件通過率で昨年度との差異が大きい順に並べたものが図4である(2004年の分母は9159)。評定打ち切り例を除いたことから単純比較はできないが、学校生活紹介、プロジェクト学習、地域紹介など、学校ホームページコンテンツとして、個性を發揮しやすい項目に増加が見られる。これらは、学校ホームページへの制作者側の意識の高まりを示すものであろう。

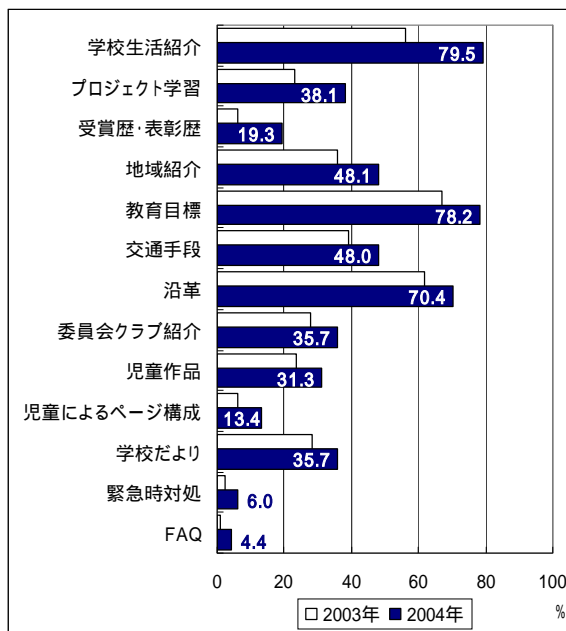


図4 各項目別条件通過率の比較

なお、本稿では掲載しきれない部分について、発表では、詳細な統計情報をもとに2004年の学校ホームページ傾向を明らかにすることとしたい。

1 Shimpei TOYOFUKU 国際大学グローバルコミュニケーションセンター e-mail: toyofuku@glocom.ac.jp

2 i-learn.jp サイト <http://www.i-learn.jp/>

3全日本小学校ホームページ大賞大会ホームページ <http://www.j-kids.org/>